

平成25年度 日本電気技術規格委員会  
第1回 溶接専門部会 議事要旨

1. 日時：平成25年6月12日（水）13:30～16:30
2. 場所：一般財団法人 発電設備技術検査協会 本部 E・F 会議室
3. 出席者（順不同、敬称略）

部会長：野本（東京大学名誉教授）  
部会長代理：小溝（大阪大学）  
委員：三原（富山大学）、小関（東京大学）、飯田（東京電力）、  
齊藤（奥村代理、中部電力）、平井（関西電力）、逢澤（日立）、  
田崎（原田代理、東芝）、中川（青木代理、IHI）、伊倉（パブコック日立）、  
中田（三菱重工業）、小川（新日鐵住金）、森本（新日鐵住金）、  
横野（日本非破壊検査協会）、堀江（火原協）、海老沢（日本電気協会）、  
検討会幹事：尾形（東京電力）、長谷川（中部電力）  
傍聴者：臼井（電事連）  
常時参加者：大神（野田代理、経済産業省）  
事務局：佐藤、大石、長谷川

4. 配付資料 ☆：事前配布した資料

- WS-25-1-1 平成24年度第2回溶接専門部会議事要旨
- WS-25-1-2 規約改正案
- WS-25-1-3 委員名簿
- WS-25-1-4 JESC 功績賞の受賞について
- WS-25-1-5 WS 書面投票結果と対応
- ☆ WS-25-1-6 検討課題 WS07-02：ボイラー等の突合せ溶接による溶接部の非破壊試験除外条件の見直し
- ☆ WS-25-1-7 検討課題 WS08-01：手溶接士の技能試験における曲げ半径について
- WS-25-1-8 検討課題 WS12-02：溶接士技能の更新について
- WS-25-1-9 検討課題 WS13-XX：JIS Z 2305（2013）「非破壊試験－技術者の資格と認証」の引用
- WS-25-1-10 検討課題 WS13-XX：JIS Z 3121（2013）「突合せ溶接継手の引張試験方法」の引用
- WS-25-1-11 検討課題 WS13-XX：JIS Z 3122（2013）「突合せ溶接継手の曲げ試験方法」の引用
- WS-25-1-参1 検討課題 一覧表
- WS-25-1-参2 検討要望 一覧表
- 資料番号無し 書面投票及び専門部会出席実績表

5. 議事概要

- 5-1 定足数の確認

本部会において、審議成立の定足数である14名を満たすことが確認された。  
**委員総数20名；定足数確認時：出席17名、欠席3名**

- 5-2 前回の溶接専門部会議事要旨の紹介（報告事項）

[資料 WS-25-1-1]

前回議事要旨は既に承認されており、内容の紹介を行った。

- 5-3 部会規約の改正について（審議事項） [資料 WS-25-1-2]  
事務局から部会規約の改正内容について説明があった。  
改正の決議は部会長の判断により挙手で行われた。

**賛同 17名 改正承認**

- 5-4 委員退任と常時参加および委員再任について [資料 WS-25-1-3]  
奥村委員（経済産業省）が退任される旨の紹介があった。また、改正した部会規約に基づき、野田氏が常時参加者となることの承認が挙手で行われた。野田氏の代理である大神氏よりご挨拶があった。  
さらに、次回の部会開催までに委嘱任期の満了する逢澤委員、平井委員、伊倉委員および鈴木委員の再任について決議を行った。再任の決議は部会長判断により挙手で行われた。

**野田氏の常時参加 賛同 17名 承認**  
**逢澤委員 賛同 16名 再任**  
**平井委員 賛同 16名 再任**  
**伊倉委員 賛同 16名 再任**  
**鈴木委員 賛同 17名 再任**

- 5-5 JESC 功績賞の受賞について [資料 WS-25-1-4]  
事務局から、日立製作所 朝倉徳男氏の JESC 功績賞受賞に関する紹介があった。また、同社の委員である逢澤委員より、受賞に関するご挨拶があった。

- 5-6 WS 書面投票結果と対応について [資料 WS-25-1-5]  
事務局から、前年度に書面投票を行った3件に関する結果の紹介があった。この3件については、ある程度の件数が蓄積された段階で JESC に上程されることとなった。

- 5-7 検討課題の書面投票移行のための審議について（審議事項） [資料 WS-25-1-6~7]  
検討会幹事及び事務局から資料に基づいて説明があり、書面投票移行への採否に関する審議がなされた。

- (1) 課題番号 WS07-02「ボイラー等の突合せ溶接による溶接部の非破壊試験除外条件の見直し」  
【概要】：火技解釈第 127 条に係る別表第 24 の突合せ溶接部の非破壊試験の除外規定を見直す改正提案。  
・改正に伴って、規定が緩和されたわけではないことが分かる表現にすべきとの意見があり、表現方法を検討するとの回答があった。  
・提案理由について、「ASME が変わったから」という表現ではなく技術的に問題ないという論理構成にするべきとの意見があり、表現方法を検討するとの回答があった。  
・P-1 以外の鋼種についても検討し問題がないことを調査する必要があるのではないかと意見があり、検討するとの回答があった。
- (2) 課題番号 WS08-01「手溶接士の技能試験における曲げ半径について」  
【概要】：溶接士の技能試験において別表第 31 条の規定を適用し、技術的に妥当な曲げ試験が行えるようにする改正提案。  
・改正すると溶接士技能試験と施工法試験が同じになり、技能に特化した条件ではなくなるとのコメントがあったが、溶接姿勢やグラインダ処理の禁止といった技量に係る制限が別に存在するとの回答があった。  
・溶接施工法の確認試験で合格しているにも関わらず、溶接士の技能確認試験で不合格になってしまう懸念があるとのコメントがあった。  
・製品とは違う材料で技能を確認する現状の制度に違和感があるとのコメントがあった。

- ・本件で念頭に置いている 9%Ni 鋼は個別の議論である。火技解釈まで変える必要はなく、例えば社内規定等で対応すればよいのではないかとのコメントがあった。
- ・問題なのは 9%Ni 鋼の溶接士技能だけであるため、Ni 基合金の溶接材料を用いた 9%Ni 鋼の溶接に限定して検討しなおすことも 1 つの方法ではないかとのコメントがあった。

5-8 中間報告について

[資料 WS-25-1-8]

検討会幹事及び事務局から資料に基づいて説明があり、検討内容に関する中間報告が行われた。

(1) 課題番号 WS12-02 「溶接士技能の更新について」

【概要】：火技解釈第 112 条に係る、溶接士の技能更新に関する改正提案。

- ・RT や UT で更新する場合は余盛高さの制限もあるため外観試験も行うべきとのコメントがあり、行うことを明確にするとの回答があった。
- ・「技能試験」と「更新試験」の違いは何かとの質問があり、「技能試験」は資格区分で要求される技量を確認するためのもの、「更新試験」はその技量が維持されていることを確認するためのものであるという回答があった。
- ・更新試験は技能試験と同じ試験を行って技能が維持されていることをチェックするべきではないかとの意見があり、一番厳しい溶接姿勢で確認するなどの条件について検討するとの回答があった。

5-9 新規検討課題について

[資料 WS-25-1-9~11]

事務局から資料により新規検討提案に関する議題の紹介があり、検討採否について審議がなされた。検討採否の決議は、部会長の判断により挙手で行われた。

(1) 課題番号 WS13-XX 「JIS Z 2305(2013) 「非破壊試験—技術者の資格と認証」の引用

【概要】：改定が予定されている、JIS Z 2305 の引用に関する改正提案。

検討採否 賛同 17 名 検討採用決議

(2) 課題番号 WS13-XX 「JIS Z 3121(2013) 「突合せ溶接継手の引張試験方法」の引用

【概要】：改定が予定されている、JIS Z 3121 の引用に関する改正提案。

検討採否 賛同 17 名 検討採用決議

(3) 課題番号 WS13-XX 「JIS Z 3122(2013) 「突合せ溶接継手の曲げ試験方法」の引用

【概要】：改定が予定されている、JIS Z 3122 の引用に関する改正提案。

検討採否 賛同 17 名 検討採用決議

5-8 その他

5-8-1 次回スケジュールについて

次回部会の日時は、平成 25 年 12 月 9 日（月）13：30～とした。  
場所等は事務局から連絡することとした。

5-8-2 事務手続きの連絡等

特になし。